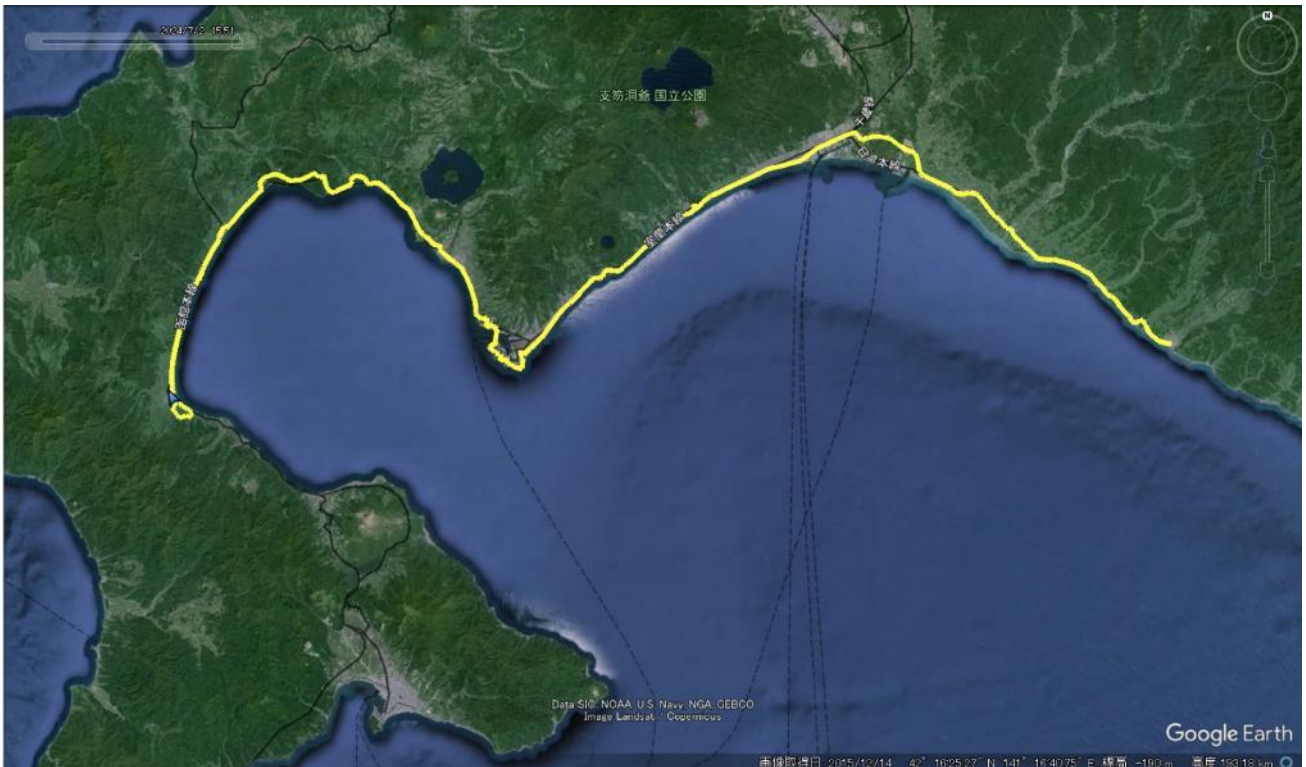


☆7日目（7月2日）：静内から八雲まで



行程地図（7日目）_記録 OLYMPUS TOUGH TG-6

本日は快晴。早朝に静内を出発、海岸線を日高本線と平行して紋別方面に進む。



写真 268. 厚別川の日高本線の鉄橋



写真 269. 紋別灯台

17年前に家族で車中泊した「道の駅 むかわ四季の館」が懐かしくなって立ち寄った。今回もまだ朝早く施設はオープンしていなかった。でも車中泊している車で混んでいた。国道 235 に戻り苫小牧方面に進んだ。国道沿いに、かわいらしいデザインのコンクリート用のサイロが建っていた。

今回苫小牧港は寄らずに通過したが、前日青森から寄港したフェリーが強風にあおられて、護岸に衝突して着岸できず、まだこの時間は沖合に係留されていたらしい。



写真 270. 道の駅 むかわ四季の館



写真 271. コンクリートサイロ

時折、遠くに駒ヶ岳を見ながら走った。苫小牧を過ぎた白老町の「ウポポイ（民族共生象徴空間）」に興味があったが、やはり開館前で見学できなかった。



写真 272. 遠く駒ヶ岳を望む



写真 273. ウポポイ（民族共生象徴空間）



写真 274. 室蘭本線の特急が通過中



写真 275. マルヨシ水産「かに御殿」

ウポポイの前の踏切を丁度特急が通過するのが見えた。ラッキー！

国道沿いのファミレスの「かに御殿」の屋根の上の巨大鮭と熊の張りぼてが、迫力満点。ここも、開店前。

国道を進むと、虎杖浜のところ少し海岸線と離れるので海岸寄りの細い道を走ってみた。干物作製器がぐるぐる回っていたり、たらこ屋の顔出しパネルがあったり、ちょっと面白かった。



写真 276. ぐるぐる回って干物制作中



写真 277. 「虎杖浜たらこ」の看板

国道 235 を南下し、登別を通過して室蘭の地球岬を目指す。途中、夏期だけオープンしている登別マリンパークニクスランドが見えた。国道は、登別の市街地を避けて海岸線の快適ドライブウェイとなる。



写真 278. 登別マリンパークニクスランド



写真 279. 国道 235 幌別

絵鞆半島で道道 919 に入ってグネグネ道をトッカリシヨ展望台まで登る。途中、木々の間から白鳥大橋が見えた。



写真 280. 道道 919 は細い



写真 281. 白鳥大橋が見える

トッカリシとは、アイヌ語で「アザラシ岩」という意味らしい。展望台からのトッカリシ浜の奇岩は絶景。



写真 282. 高いところまで登る



写真 283. トッカリシ展望台



写真 284. 展望台からの景色



写真 285. 絵柄半島観光マップ

すぐ隣の地球岬展望台へと行く。岬の正式名称はチキウ岬だとか。駐車場から階段を上って展望台と出る。チキウ岬灯台と太平洋が一望出来る。看板に鯨やイルカが見えるとラッキーと書いてあったので、目を凝らして見たら、灯台の周りの海にイルカが数頭泳いでいるのが見えた。



写真 286. なんとも面白いネーミング



写真 287. 名前になぞって地球モニュメント



写真 288. 地球岬パノラマ

ちきうみさき
チキウ岬灯台

～クジラやイルカが見えたらいいね～

チキウ岬灯台は、1920年(大正9年)に点灯し、沖行船や室蘭港に出入りする船の安全を願って、真っ白な姿で断崖絶壁の上に建っています。この辺りは、クジラやイルカが回遊していますので、運が良ければ見ることができます。

この施設の異常を発見したときや、海上における遭難、その他何か気づいた点がありましたら、下記の管理事務所までお知らせください。

位置図

位置	北緯 42度18分08秒
	東経 141度00分04秒
光り方	群せみ白光 毎30秒に2せん光
光の強さ	590,000カンテラ (1000cd)
光の届く距離	24海里 (約44キロメートル)
高さ	地上から灯台頂部 15メートル
	水面から灯火 約131メートル
管理事務所	第一管区海上保安本部 室蘭海上保安部
	電話 0143-23-3133

写真 289. 鯨やイルカも見れる



写真 290. 灯台の右側にイルカ発見



写真 291. 駐車場からはかなり登ってくる



写真 292. 測量山もチェック

地球岬の後、測量山展望台にも上がった。こちらは少し寂れた感じだった。すぐに下に降りて白鳥大橋を渡る対岸の白鳥湾展望台に立ち寄った。ここも駐車場から展望台までだいぶ登るが、周りの木々が邪魔してあまりいい展望ではなかった。



写真 293. 白鳥湾展望台より



写真 294. 白鳥湾展望台駐車場

ここから噴火湾に沿って走る国道 37 は、「みなみ北海道オーシャンライン」と呼ばれているようだ。有珠山だろうか、新しい火山が正面に見えてきた。



写真 295. 有珠山が見えてきた



写真 296. 室蘭本線見学で海岸に向かう

何かのテレビ番組でこの北舟岡駅が、海に接している絶景駅と紹介されていたので、寄ってみた。



写真 297. 北舟岡駅車寄せ



写真 298. 北舟岡駅ホーム



写真 299. 北舟岡駅全景

つぎは、昼飯を食べに、「道の駅 とようら」に寄った。ここで「ホタテ丼」と「ホタテフライ級」を食べた。なんで、フライがフライ級という名前かというと、ボクシングの元フライ級チャンピオンの内藤大助がここ豊浦出身でそれに因んで命名された。リーズナブルで、美味しい昼食がいただけた。

北海道マークに釣られつい買ってしまったバナナミルクコーヒーも特にまずいわけではなく普通に飲めた。



写真 300. 道の駅 とようら



写真 301. 帆立丼とホタテフライ級



写真 302. 地元出身内藤大助コーナー



写真 303. バナナミルクコーヒー

国道 37 が海岸線から離れるので、道道 608 に入り海岸線を走る。大岸駅にも寄ってみた。ちょうど特急が来る時間だったので、バイクと特急を写してみたが、いまいちだった。まだまだ「撮り鉄」にはなれないな。



写真 304. 根室本線大岸駅



写真 305. 大岸駅ホーム



写真 306. 特急 北斗 7 号 (1)



写真 307. 特急 北斗 7 号 (2)

また、国道 37 に戻り長万部方面に進む。車も少なく走りやすい道だった。



写真 308. 快適な国道、少し内陸に入る



写真 309. また海辺を走る

長万部に近づくにつれて、北海道新幹線の物と思われる工事が増えてきた。今回、長万部に宿を取ろうとしたが、新幹線の工事関係者で数ヶ月先までどこもいっぱいと言われてしまった。仕方なく先の八雲町に宿を取った。



写真 310. 新幹線の橋の工事



写真 311. 新幹線関連工事か？

長万部には、行きたい史料館があった。町民センターが「郷土歴史資料室」と「鉄道村」の二つを展示運営しているのである。普段受付の人が居ないので、書いてあるところに電話すると近くの役場から係の人がきて開けてくれる。「郷土歴史資料室」は、地元民から寄贈された古い漁業、農業および生活用品が展示されている。古いカメラも展示されていたが、ロシア製とドイツ製が多かったのは意外だった。ロシア経由で入ってきたのだろう。



写真 312. 長万部町民センター



写真 313. 「郷土歴史資料室」



写真 314. 古いカメラ



写真 315. 「鉄道村」入り口

「鉄道村」は、入り口が改札になっているほど凝っていて、いろいろな古い鉄道関連品が展示されている。鉄道模型なども展示。長万部が、函館本線と室蘭本線のターミナル駅として栄えていたので、これだけの物が集まったとの説明であった。



写真 316. 「鉄道村」

長万部からは、北海道唯一の一桁行国道 5 号線を南下する。まずは、寄ってみたかった「お菓子の王国はっぴーディアーズ」に行く。北海道銘菓「雪花青」の製造元が廃校した中ノ沢小学校を改装してお菓子の工場とお店にしたところ。限定品の「雪花青」を始めいろいろなお菓子を駄菓子屋感覚で買えるので面白かった。



写真 317. お菓子の王国はっぴーディアーズ



写真 318. 「八雲町木彫り熊資料館」

次に向かったのが、宿泊地でもある八雲町の「八雲町木彫り熊資料館」。北海道と言えば、木彫りの熊。その歴史が紐解かれる。併設の「八雲郷土資料館」は、古道具が展示されていた。

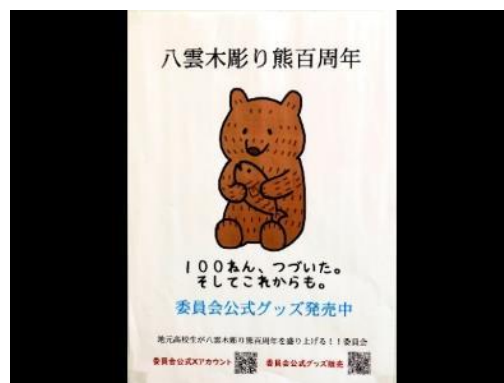


写真 319. 木彫りの熊 100 周年



写真 320. 新旧木彫りの熊が展示されている



写真 321. マークのある物は撮影 OK

チェックインには早かったので、ガソリンスタンドで、近くにいいところがないか聞いたら、「噴火湾パノラマパーク」を紹介してくれた。ここは、高速のパーキングと共用のハイウェイオアシス的な場所。レストラン、丘の駅等がある。お菓子の「白い恋人達」とのコラボのソフトクリームをきれいな噴火湾風景を見ながら食べた。



写真 322. 並木が整備されていて快適



写真 323. 丘の駅



写真 324. 白い恋人達ソフト



写真 325. 北海道新幹線で沸く八雲駅

パノラマパークから八雲の町にもどり、本日の宿「二海」にチェックインした。「二海」は、八雲駅の目の前の便利な立地。夕飯は、目星を付けていたカレー屋が時間になっても開かないので、近くの弁当屋で弁当を買った。



写真 326. 旅館「二海」



写真 327. 旅館の部屋